

第三百十五話 勇戦敢闘が日本復活の源！

大東亜戦争間における日本軍の勇戦敢闘には驚嘆し、敬服もするところ大である。本メモランダムでも何話か取り上げた。メモランダム 29, 30, 37, 39, 123 話、及び他のメモランダムにも随所日本軍将兵の勇戦敢闘や殉国の想いにも触れている。

メディアックス社発行の「知恵と勇気と行動力で立ち向かった大東亜戦争の軌跡 詳説 帝国陸海軍・勇戦の記録」(H27/7/31)に、27 個の事例が紹介されており、詳細は同書を読んで頂くとして、掲載されている事例を簡単に紹介したい。



◎ 「開戦から終戦まで陸軍・海軍・陸海軍航空部隊の作戦行動で見る主要戦闘記録、苦難を乗り越えて前進した学ぶべき優秀な指揮官たちの姿」、「我が父祖は家族と国のために懸命に戦った」「日本人が語り継がねばならない歴史の真実」(同書から)と同書の狙いを明らかにしている。

I 帝国陸軍の記録

- 1 コタバル上陸作戦(佗美支隊の孤軍奮闘)
- 2 シンガポール攻略戦(5 師団 11 連隊の上陸からシンガポール陥落まで)
- 3 ガダルカナル攻防戦(ガ島奪回を命じられた 28 連隊(一木支隊)の悪戦苦闘)
- 4 インパール作戦(コヒマからの遅滞行動における宮崎支隊の敢闘)
- 5 パレンバン降下作戦(挺進第 2 連隊の敵中降下から製油所占領)
- 6 拉孟守備隊の奮戦(30 倍以上の敵に対し死闘 98 日敵将蒋介石「範とすべし」と)
- 7 ペリリュー島の戦い(変幻自在の戦闘を行い米海兵師団を翻弄)
- 8 硫黄島の戦い(複郭陣地で徹底抗戦、米兵の戦死・戦傷者数が日本軍より多い)
- 9 沖縄の死闘=嘉数・前田高地の戦い(反射面陣地や洞窟陣地で激闘)
- 10 義烈空挺隊の戦い(敵占領中の飛行場に強行着陸し、敵機や基地施設破壊)
- 11 占守島の戦い=戦車第 11 連隊の激闘(終戦後の帝国陸軍最後の熾烈な戦い)

II 帝国海軍の記録

- 12 真珠湾攻撃=奇襲を成功させた要因(空母機動部隊の誕生運用)
- 13 ミッドウェー海戦(空母 4 隻を喪失し、戦局の転回点とも)
- 14 第一次ソロモン海戦(敵艦艇多数撃沈・日本圧勝、目的たる輸送船攻撃せず)
- 15 ガダルカナル補給戦(制空・制海権なき輸送作戦、蟻・鼠・ドラム缶輸送 etc)
- 16 マキン・タラワの玉砕(圧倒的な戦力差のもと果敢な戦闘した海軍陸戦隊、玉砕)
- 17 レイテ沖海戦(空母機動部隊を囫に乾坤一擲の勝負、謎の反転)
- 18 沖縄水上特攻=戦艦「大和」の最後(満身創痍連合艦隊の航空援護なき水上特攻)
- 19 幸運艦「雪風」(開戦時から各種作戦に参加し、終戦まで生き残った駆逐艦)
- 20 人間魚雷「回天」の特攻(酸素魚雷改造、日本軍初の特攻 泊地攻撃、敵艦攻撃)

III 陸海軍航空部隊の記録

- 21 マレー沖海戦(航空主兵時代到来を印象付けた戦い)
- 22 加藤隼戦闘隊(緒戦から過酷な任務を遂行「隼」)
- 23 ラバウル航空隊の戦歴(陸海軍が集結し、ソロモンでの航空消耗戦を強いられる)
- 24 マリアナ沖海戦=あ号作戦(アウトレンジ戦法失敗、我が航空部隊は壊滅状態に)
- 25 本土防空戦=各部隊の戦歴(米軍の本土空襲を迎撃した各地の航空部隊)
- 26 要地防空戦と高射砲(超空の要塞 B-29 対処用の要地高射砲)
- 27 沖縄特攻=天号・菊水作戦(陸海空の一大反撃作戦 特攻出撃数 1870 機)

* 日本は政治・軍事戦略において大なる過誤を犯したが、将兵の救国の想いと烈々たる熱は世界最強であり、それが日本復活の源となった。感謝である。

(了)